

12 つくる責任 つかう責任



Goal 12

つくる責任 つかう責任

RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

●この目標(Goal)の解説

目標12「つくる責任、つかう責任」は、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄による資源の枯渇、環境破壊や人権問題をもたらしてきた生産消費のあり方を変えようというものです。目標12は、日本を含めたOECD(経済協力開発機構)諸国のほとんどが最低評価である(持続可能な開発報告書2019より)という現状があります。

日本の取組みは、食品ロスやフェアトレードなどの個別課題の取り組み、「持続可能な消費」の協調、また「生産」と「消費」の分断した取り組みなどが特徴として挙げられます。生産消費の変革に向けた実践例が少ないのが課題です。

目標達成に向けて、第一に「持続可能な生産・消費への移行」が挙げられます。従来の経済成長を支えてきた大量生産・大量消費から移行するためには、企業、消費者、行政が一体となって取り組む必要があります。廃棄やロスに焦点を当てるだけでなく「天然資源の持続的な管理および効率的な利用の実現」「持続可能なライフスタイル」などのターゲットにも関連させることが大切です。

第二に「他の目標と他のターゲットとの連動」が挙げられます。他の目標、ターゲットなどとも関連させながら相乗効果を上げていく工夫が、SDGs達成への取り組みをステップアップさせるために必要です。例えば目標12のターゲット「天然資源の管理」や「環境上適正な化学物質の管理」は目標3,13,14,15とも関係しますが、これまでは啓発にとどまり、これらの目標の解決につなげるまでには至っていません。持続可能な生産消費への移行に役立つ知識、ツールや経験を共有し、相互の目標をつなげていく実践が求められます。



●大学生協での実践事例



宮城大学生協(太白キャンパス) ハロウィン企画



10月31日のハロウィンに合わせて、食堂利用者に売店で廃棄される予定だったお菓子などの食べ物を無償で配布した取り組みです。この取り組みで配った食べ物は、いずれも賞味期限前で廃棄時点でもまだまだ安心して食べることができることをレジュメと共にお渡しの際にお伝えし、取り組みを通じて食ロスの削減や環境への興味関心を持つ組合員を増やしました。



東京農業大学生協 TABETEを活用した食品ロス削減 の取り組み



大学の食堂でも食品ロスの問題について関心を持ち、取り組もうと、フードロス対策アプリ「TABETE」を活用して夕食営業のロスを削減しました。余った食材をお弁当に詰め、アプリを経由して提供しました。アプリの導入に際しては、学長や食品ロスの問題を研究する大学教員や研究室の学生が働きかけ、組合員に食品ロスについてアンケートを取りました。企業と教員-学生と生協と一緒に食品ロスを削減する動きが広がっています。

●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること/自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう!